

第1回 ミドルステージ研修

令和4年7月29日(金)

講演 「こ幼保小のより良い連携・接続に向けて」
～保護者との関係構築から～

講師 帝塚山大学 教授 松浦 真理氏

1. 昨年度の振り返り

- ① 幼児期の終わりまでに育みたい10の姿の具体例を考える。
- ② 高校卒業までに育みたい3つの資質能力の対応を考える。
- ③ 保育エピソードから3つの資質能力の育ちを考える。

2. 研修のテーマ「保護者とのより良い連携について」

★保護者(家庭)と連携することの意味

〈確認ワーク〉



○研修参加者と保護者との関係実感

- ・「あなたにとって保護者はどういう存在？」
- ・保護者との関係性についてシールを貼る、簡単な内容をポストイットに記入し、参加者の実感を見える化する。

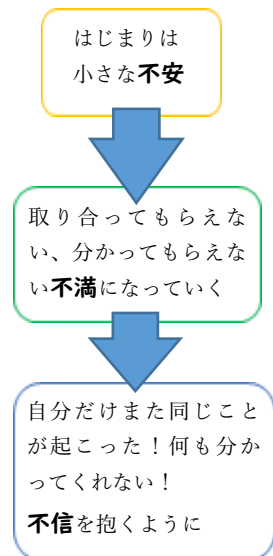
●保護者との良好な関係が築けている

●保護者との関係性に不安を感じる時がある

結果：シールの数はほぼ一緒だったが、良好な関係の方にコメントが多くあった。

○保育者と保護者はパートナーである。

- ・子どもの生活は園と家庭の両方を足して1つである。
- ・どの親も、子どもにとっては大切に大好きな存在である。
- ・保護者は園と一緒に子どもに良いことをしたいと思っている。
でも、自分のことで精一杯になったり子育てに自信がもてなかったりすることもある。
そんな時、保護者の「大丈夫ですよ。気にしなくても大したことはありませんよ。」という言葉が支えになったり、時には『わかってもらえない』と捉えられたりすることもある。



〈年長児担当の先生方からの事前アンケートから〉

(問) 保育者と保護者の間で、小学校との接続についての思いや考えが、どのような点が同じで、どのような点が異なるのでしょうか？

→園での遊びや生活を通して、学びの自立や生活上の自立、精神の自立などが育っていることを、保護者は頭では理解しつつ、小学校教育とは繋げて考えにくい状況がある。

3. 一つの試みとして園と家庭の「つながるシート」を作成してみる。

・活動や行事や子どもの成長への気づき毎に伝えるのではなく、子どもの学びの観点から伝えると同時に、家庭でのどのような親子の関わりや子どもの姿が、それとつながるかを見せると、分かりやすくなる。

グループワーク

- ・7グループで話し合い、「つながるシート」に書き込み、発表する。



園での子どもの姿
(写真やイラスト)



家庭での子どもの姿
(写真やイラスト)

〈園と家庭のつながるシート〉

コンセプト	保育内容	保育者の関わり	左と関連する家庭での子どもの姿	保護者の関わり方 (していただきたいことを含む)
1 判断と行動	・プールで顔をつけたりもぐったり泳いだりすることに意欲的に取り組む。	・自分なりの目標に近づけられるように励ましたりできたという喜びを味わえるようにする。友達の取り組み姿や頑張る姿を見せ合い認め合う場をつくる。	・お風呂や水遊びで顔つけをしたり、もぐったりする。水が少し苦手な子は、顔を洗うなどする。	・園でできたことを一緒になって喜んだり、褒めてあげたりする。顔つけで10まで数えたり「次は20まで」など次への目標と一緒に考えたりする。勝負したりプールに行ったり楽しむ機会をつくる。
2 結い	・梅雨時の自然や夏の夜空の様子に興味や関心をもつ。	・雨が降ったことを見逃さず、傘を持って散歩に行ったり雨を集めたりして興味が持てるようにする。集めた雨で遊ぶ。	・家の中で雨を見たり、雨の音を聞いたりする。	・家の中で会話をしながら雨を見る。傘をさして歩いている時に話をする。一緒にテレビを見ながら会話を楽しんだり、気持ちを共有したりする。
3 結い	・自分たちでルールや役割分担を考えながら、遊びを進めようとする。	・互いの考えを出し合う姿を見守ったり、仲立ちをしたりする。できたことを十分に認め、達成感を味わえるようにする。	・自分ができるとお手伝いの内容を考える。お手伝いカレンダーを作って、お手伝いをしたらシールを貼る。自分以外の誰かがいつもしてくれているということに気づき、感謝の気持ちをもつ。	・子どもができるお手伝いの内容を一緒に考える機会をもつ。子どもがしてくれたことに「ありがとう」と感謝の気持ちを伝える。子どもが自分からお手伝いすることを待ったり、一緒にしたりする。

【参加者の声・気づき】

- ・保護者に園の様子を知ってもらい、共有してもらい方法としての〈つながるシート〉のことを学ぶことが出来た。見える化することでより家庭でも、理解や実感してもらいやすくなる感じた。
- ・園でしていることや子どもの姿が、家庭ならどんなことが出来るか、家庭が気軽に楽しめることはどんなことかなど、園と家庭を繋げて考えるきっかけとなった。
- ・家庭で協力してもらえよう具体的な手立てを伝えることの大切さを学んだ。
- ・グループで話し合うことで、自分の考えだけではなく違った視点を知ることが出来た。

作成者 幼児教育アドバイザー 一ノ瀬 万起